

2016年3月6日

「健康増進活動における市町村-保健所間の連携意識実態調査（市町村保健センター）」にご協力いただきました皆様へ

突然のお願いにもかかわらず、調査にご協力いただきありがとうございました。簡単ではございますが、調査結果についてご報告申し上げます。

名古屋工業大学大学院 社会工学専攻
2年 志水 翔平

アンケート調査結果

地域保健活動における市町村と保健所の連携に対して、「どのような意識を抱いているのか」「どの程度連携は実施できているのか」「どういった特性が連携実施に影響しているのか」などを明らかにすることを目的に、2016/12/8～12/28の期間において、愛知県知多半島医療圏の5市5町の市町村保健センターに勤務する職員に対してWebアンケートを実施した。最終的に34件の回答が得られた。

(1) 回答者の属性に関する質問

Q1: あなたの職種をお答えください（あてはまるものを1つ選択）

1: 保健師

2: 1以外の専門職種

3: 事務職

4: その他（ ）

回答者は28名が保健師であり、全体の8割を超えていた。その他は事務職と保健師以外の専門職が3名ずつという結果になった。保健師以外の専門職については、管理栄養士が1名、歯科衛生士が1名、無回答が1名であった。

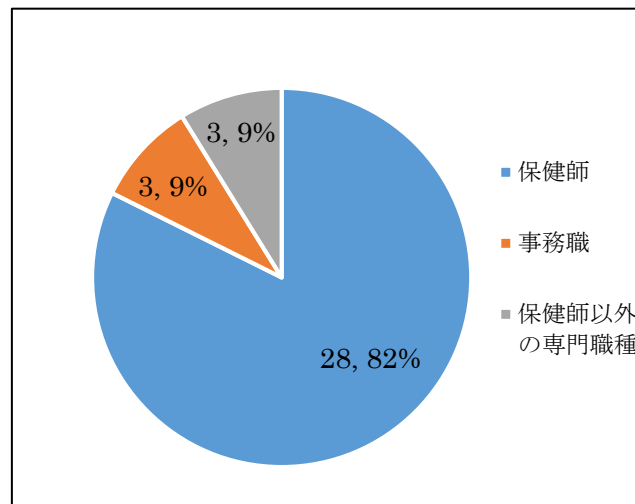


図1 回答者の職種 (N=34)

Q2: Q1 でお答えいただいた職種の通算経験年数についてお答えください

勤務経験年数が0～5年が9名で最も多く、勤務経験が長くなるにつれて回答者数は減少傾向にある。

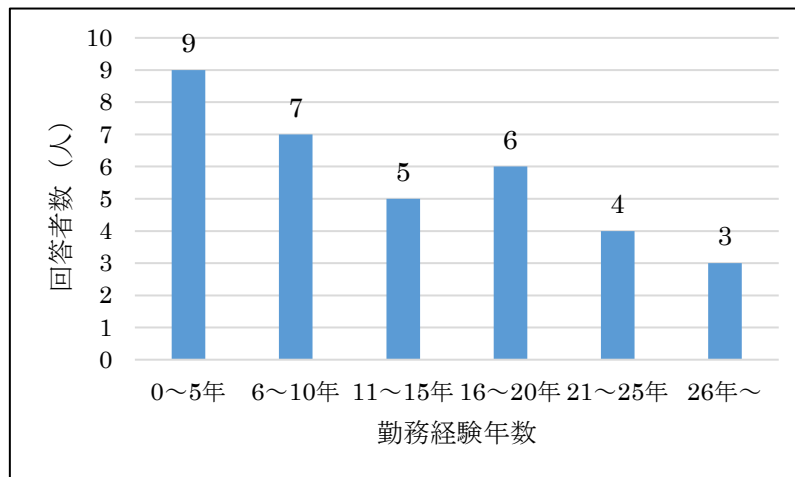


図2 1で回答した職種での通算経験年数 (N=34)

Q3: 異なる職種や職場での勤務経験はありますか？ (あてはまるものを1つ選択)

1: なし

2: あり

「異なる職場での勤務経験がある」と答えた回答者は41%、「なし」と答えた回答者は59%であった。

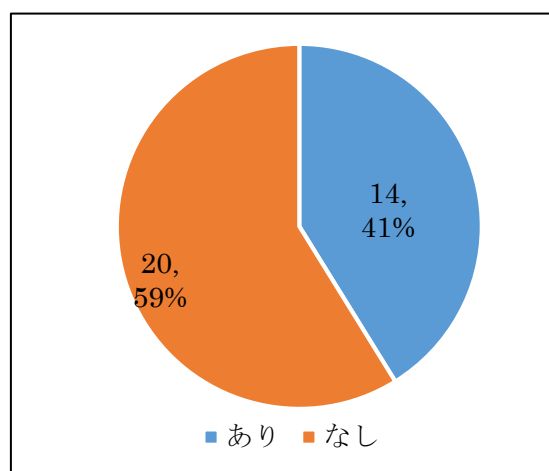


図3 異なる職種や職場での勤務経験の有無 (N=34)

Q4: あなたの現在の職位をお選びください（あてはまるものを1つ選択）

1: 管理職（課長補佐以上）

2: 係長・主任・主査・技師

3: その他（ ）

最も割合が多かったのが「係長・主任・主査・技師」で全体の73%であった。管理職の回答者は3名であり、その他を選択した回答者の内訳は「主事」が3名、「栄養士」が1名、「保健師」が1名、無回答が1名という結果となった。

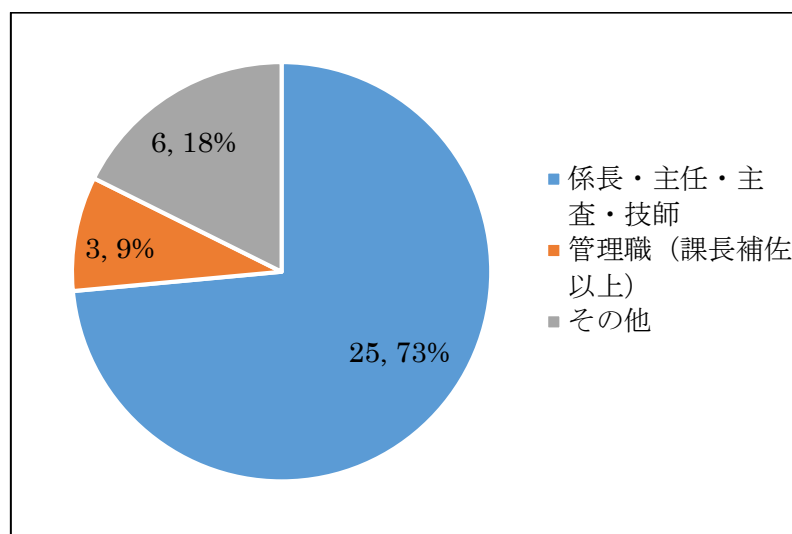


図4 回答者の職位 (N=34)

Q5: あなたの年齢をお答えください

1: 20 歳代

2: 30 歳代

3: 40 歳代

4: 50 歳代

5: 60 歳代以上

40 歳代が 13 名，30 歳代が 12 名でこれらの年代の回答者が多い結果となった。また 60 歳代以上の回答者は 0 人であった。なお，回答者の平均勤務年数は 13.0 ± 8.5 年であった。

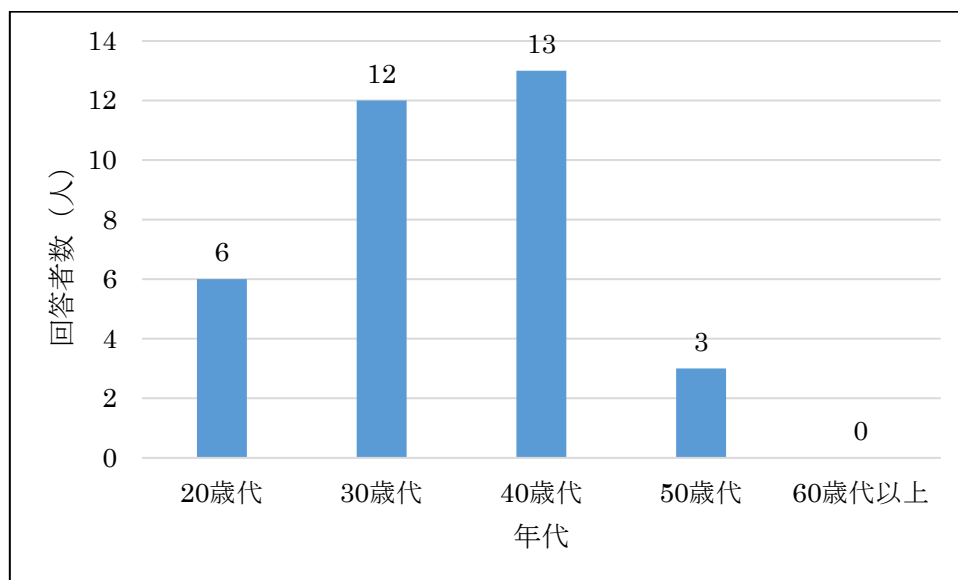


図 5 回答者の年代 (N=34)

Q6: あなたがこの1年間で最も時間をかけている業務を1つお選びください

- 1: 母子保健
- 2: 児童福祉
- 3: 生活習慣病予防 (がん対策含む)
- 4: 高齢者保健・介護予防
- 5: 介護保険
- 6: 地域包括ケアシステム構築
- 7: 精神保健 (自殺対策を含む)
- 8: 虐待・DV防止対策
- 9: 管理業務 (マネジメント)
- 10: その他 ()

最も回答が多かった担当業務は「生活習慣病予防 (がん対策含む)」で13人であった。次いで「母子保健」が7名、「高齢者保健・介護予防」が5名、「管理業務 (マネジメント)」が4名となっている。その他の内訳は「健康増進」が1名、「特定保健指導」が1名、「予防接種」が2名、「歯科保健」が1名となっている。

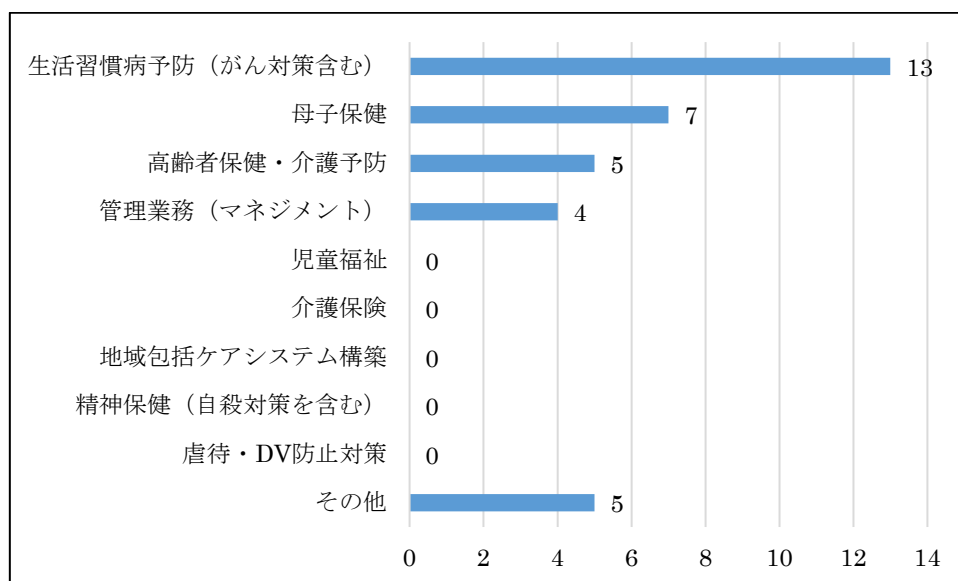


図6 1年間で最も時間をかけている業務 (N=34)

(2) 普段の業務における各種連携に関する質問

Q7: この1年間で保健所との連携（情報共有、相談等）をされたことはありますか？
（あてはまるものを1つ選択）

1: ない
2: 不定期で数回程度実施
3: 月に一度などのペースで定期的に実施
4: 事あるごとに実施

最も多かった回答が「不定期で数回程度実施した」の25名であった。また「ない」「事あるごとに実施した」が4名、「定期的で数回程度実施」が1名であった。

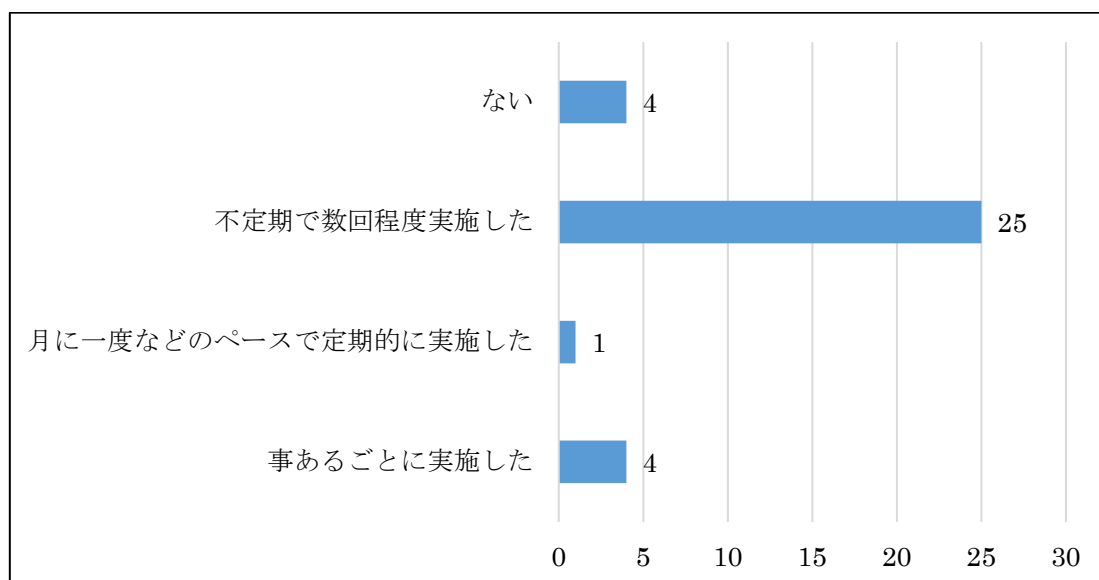


図7 最近1年間における保健所との連携（情報共有、相談等）の頻度（N=34）

Q8: 何がきっかけで保健所と連携することが多いですか？（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 連携の経験なし
- 2: 定例的に決まっているため
- 3: 保健所からの提案
- 4: 市町村側からの問い合わせ
- 5: その他（ ）

保健所と連携するきっかけで最も回答が多かった項目は「定例的に決まっているため」の17名であった。次いで「市町村側からの問い合わせ」が11名、「保健所側からの提案」が4名であった。その他の回答内容は「ケース連絡」であった。

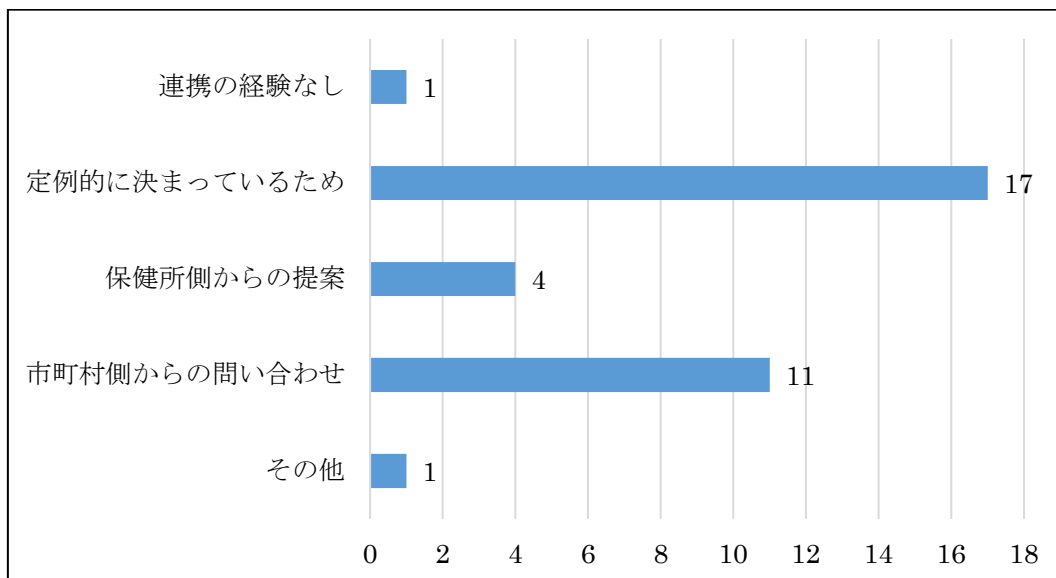


図8 保健所と連携するきっかけ (N=34)

Q9: 保健所と連携することによって何かしらの効果はあったと思われませんか？

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 連携の経験なし
- 2: 効果なし
- 3: あまり効果なし
- 4: ある程度効果あり
- 5: 非常に効果あり

保健所と連携することによる効果を尋ねたところ、約7割の回答者が「ある程度効果あり」「非常に効果あり」と回答していた。一方で「あまり効果なし」「効果なし」と答えた回答者が合わせて3割程度という結果となった。

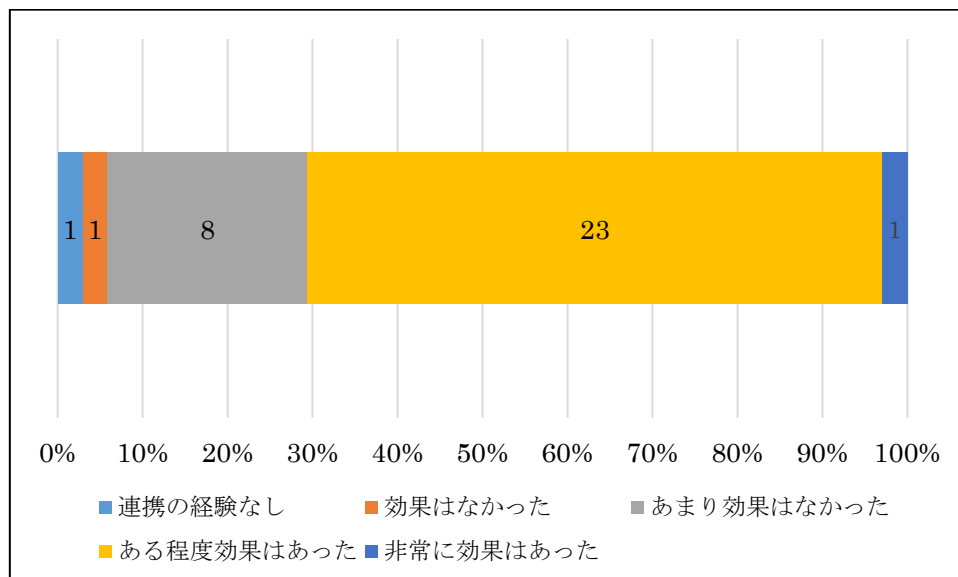


図9 保健所と連携することによる効果 (N=34)

Q10: Q9 の回答理由

保健所と連携することによる効果に関する回答理由について、「効果はなかった」「あまり効果はなかった」と回答した理由は主に、「ケースの同行や後方支援をしてもらいたいがまったく協力をしてもらえなかった」「情報共有のみで、密な連携がなかったら」であった。

「ある程度効果はあった」「非常に効果はあった」と回答した理由は主に、「各市町の取り組み状況や県の行っている事業概要が確認できたため」「保健所のもつ情報を提供していただいた」「情報共有のほか役割分担の整理ができ、また、保健所の実施している事業や保健所の支援体制について知る機会となったため」が挙げられる。

「効果はなかった」

- ・ケースの同行や後方支援をしてもらいたいがまったく協力をしてもらえなかった

「あまり効果はなかった」

- ・情報共有のみで、密な連携がなかったら
- ・効果を感じるための具体的な方向性の共有などはなく、ほぼ情報共有にとどまるため
- ・ケースの情報共有はしているが、実働は保健センターが多く、一緒にケースに関わっていることはあまりない
- ・医療費、健診データなどの分析や課題の選定、対策についてなど国保連合会からの支援が充実してきているため
- ・保健所の要望を満たすための連携が多く、市の意向は反映されにくい
- ・情報共有にとどまっており、連携まではできていない
- ・自分が担当する業務においては、保健所の役割は市町の管理的な部分が大きく、保健所主催の会議資料のため、市のデータ等の報告をするが、会議の内容は管内市町のデータを並べたもので、現場としては、「評価される」という思いしか残らない
- ・以前は市の新規事業のために管内データをまとめてもらったり、他地区の情報を提供してもらったりと、連携していたが、最近では県の担当者の人員削減もあり、十分な連携を図る余裕がないように感じる

「ある程度効果はあった」

- ・結核に関することでは、詳しくすぐに回答をもらえ、内容によると感じるため
- ・質問し、それに対する回答をもらうため
- ・健康づくりチャレンジ事業の実施があるため
- ・保健所と市で同じ事例に関わった際、情報共有のほか役割分担の整理ができ、また、保健所の実施している事業や保健所の支援体制について知る機会となったため
- ・各市町の取り組み状況や県の行っている事業概要が確認できたため
- ・連携会議を開催してもらっていることで、関係機関との連携がうまくすすむようになった
- ・保健所のもつ情報を提供していただいた
- ・市町では得られにくい情報を持っている場合があるため
- ・他市町の乳幼児健診等の見学の提案があり、各市町の実施状況を知ることができたり、情報交換の機会にもなり、参考になった
- ・病院受診になかなかつながらなかった事例が、保健所での面談を機に、受診した
- ・データ入手
- ・内容によって効果の程度は様々ですが、連携することによって解決されていくことが多いです
- ・各種会議や情報交換、事例を通して、気付かされることがあった
- ・精神保健の分野では対応について教えてもらったりしています
- ・保健所しかできないこともあり、その点については相談・対応してもらっているため
- ・新たな取り組みについて助言をいただける
- ・データヘルス計画策定時に、広域的なデータを提供してもらえた
- ・災害時の医療活動の検討において、医師会との会議を開催してくれるから
- ・県の状況がわかったから

「非常に効果はあった」

- ・精神ケースの相談などは、社会資源を提供してもらったり、情報を頂くなど連携があった

Q11: 保健所と連携して良かったと感じていますか？（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 連携の経験なし
- 2: しない方が良かった
- 3: あまり良くなかった
- 4: まずまず良かった
- 5: 非常に良かった

保健所と連携して良かったかどうかを尋ねたところ、約7割の回答者が「まずまず良かった」「非常に良かった」と回答していた。一方で「あまり良くなかった」「連携しないほうが良かった」と答えた回答者が合わせて3割程度という結果となった。

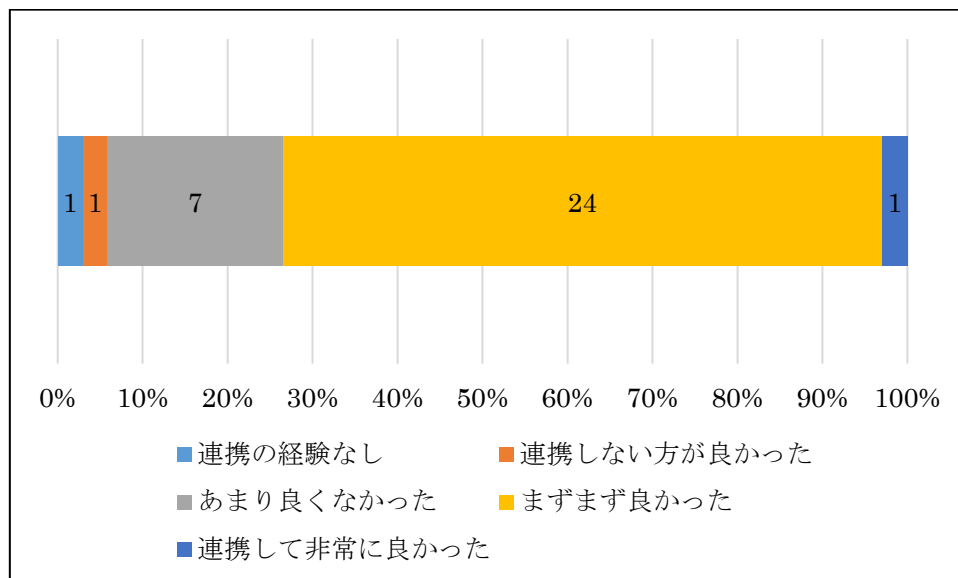


図10 保健所と連携して良かったかどうか (N=34)

Q12: 保健所との連携は必要であると考えていますか？（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 基本的に必要でない
- 2: 必要でないことの方が多い
- 3: 必要であることの方が多い
- 4: 基本的に必要である

保健所との連携は必要かどうかを尋ねたところ、「基本的に必要である」「必要であることが多い」「必要でないことの方が多い」と回答した回答者がそれぞれ3割程度であった。35%の回答者が保健所との連携に対して否定的な印象を持っていることが明らかとなった。

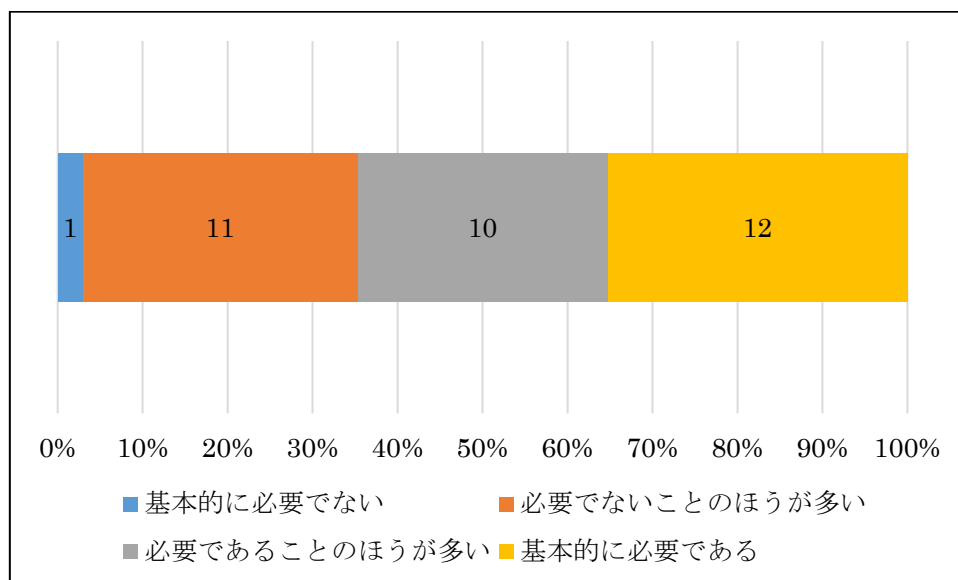


図 1 1 保健所との連携は必要かどうか (N=34)

Q13: Q12 の回答理由

保健所との連携に関する必要性の回答理由について、「基本的に必要でない」「必要でないことのほうが多い」と回答した理由は主に、「基本的に役割が異なるため」「以前に比べて市町村に出向いてくれる機会が激減しており、関係性が薄く感じる」「市町の集まりもあり市町の状況は市町で解決できることも多くある」であった。

「必要であることのほうが多い」「基本的に必要である」と回答した理由は主に、「役割の違いから、アプローチの方法に広がりが出てきたりするため」「保健所の機能を理解し、市民サービスの充実を図るため」「他市町とつながりやすい」などが挙げられる。

「基本的に必要でない」

必要な情報がすぐ入手できず、直接県に確認することが多いから

「必要でないことのほうが多い」

- ・他市町村との情報交換や情報共有の場を提供してくれるという意味ではよいが、直接的な保健所との連携というものがあまりない
- ・基本的に役割が異なるため
- ・連携したことの効果を実感できないから
- ・精神保健対策の際など職権をもっていることがあるから
- ・保健所に何を頼んでいいかわからないし、ケースの対応は結局、保健センターがやっていることが多く、指導的な立場が保健所なのかもしれないが、最近の保健師だとケースにあまり対応していないだろうし、会議の取りまとめをしてくれたり、報告物を集計してくれるのが、保健所の役割のように感じる。連携という意味では、現状ではあまり頼ることは少ない。
- ・保健所は、あまり市町の状況を理解していないことも多く会議が多いイメージがあります。市町の集まりもあり市町の状況は市町で解決できることも多くあります。研修会開催や、がん情報、合計特殊出生率、SMRなどの情報は頂けるのでありがたい面はありますが、日々の事業については保健所に何かを聞くことはほとんどありません。
- ・業務の違いもあり相談する事柄がなかったり、内容によっては県に問い合わせし直すこともある
- ・なにを期待していいか不明
- ・業務や担当によって、保健所の必要度が変わる。以前に比べて市町村に出向いてくれる機会が激減しており、関係性が薄く感じる

「必要であることのほうが多い」

- ・保健所管内栄養士と交流する機会を設けていただけるため
- ・必要である。しかし、時に保健所の担当者によっては温度差があり、対応や支援協力体制についての課題がある。
- ・情報はもらえた方が良いと思われるため
- ・役割の違いから、アプローチの方法に広がりが出てきたりするため
- ・連携することにまで至っていないため
- ・他地区の情報を提供してもらうことは、転勤のある職員や管内をまとめている保健所でしかできないことなので、情報提供や相談にのってもらおうという連携はありがたい

「基本的に必要である」

- ・保健所の機能を理解し、市民サービスの充実を図るため
- ・専門的、広域的な視点で相談に応じてもらっている。保健所管内での調整や関係機関との連携に関することは保健所にはいってもらってスムーズにすすむ。
- ・広い視野での情報を持っていると思うので
- ・重症化予防等新たに取り組む事業や、補助対象条件などの情報は早くに収集し、より良い対策を立てるには、日頃の連携、支援や指導があった方よいから
- ・町で実施している事業については県に報告する必要がありますので、連携は必須であると思います。小さい規模の行政ほど、国や県からの補助金や支援をいただかないと、事業実施は難しいのが現状です。
- ・広域的な立場から支援、指導していただければと思っているが、最近はその必要性を感じる場面が少なくなったとは感じている
- ・保健所しかできないこと（より専門性の高いこと等）もあるため
- ・現場の問題をくみ上げてくれるのが保健所で、広い視野からのアドバイスも期待できる
- ・他市町の事業実施状況について分析していただける
- ・他市町とつながりやすい

Q14: 過去に連携をテーマにした研修会に参加されたことはありますか？

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: なし
- 2: 1度だけ
- 3: 2回以上

連携をテーマにした研修会への参加経験を尋ねたところ、約6割の回答者が「参加経験なし」であった。その他「1度だけ参加経験あり」が1名、「2回以上参加経験あり」が13名で4割程度であった。

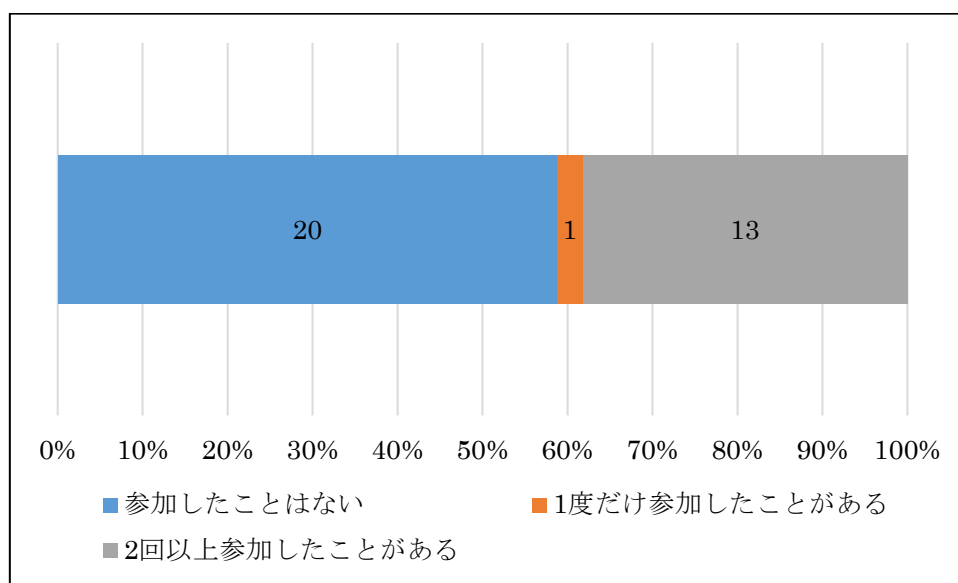


図1 2 連携をテーマにした研修会への参加経験 (N=34)

Q15: 市町村間での情報共有や協議等についてはどの程度実施されていますか？

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 基本的に実施しない
- 2: ほとんど実施しない
- 3: 定期的実施
- 4: 事あるごとに実施

市町村間での情報共有や協議等について、「定期的実施している」回答者が6割以上を占めており、「事あるごとに実施している」を含めると全体の約9割の回答者が一定の頻度で市町村間での情報共有や協議等を実施していることが明らかとなった。「ほとんど実施しない」が3名、「基本的に実施しない」が1名という結果となった。

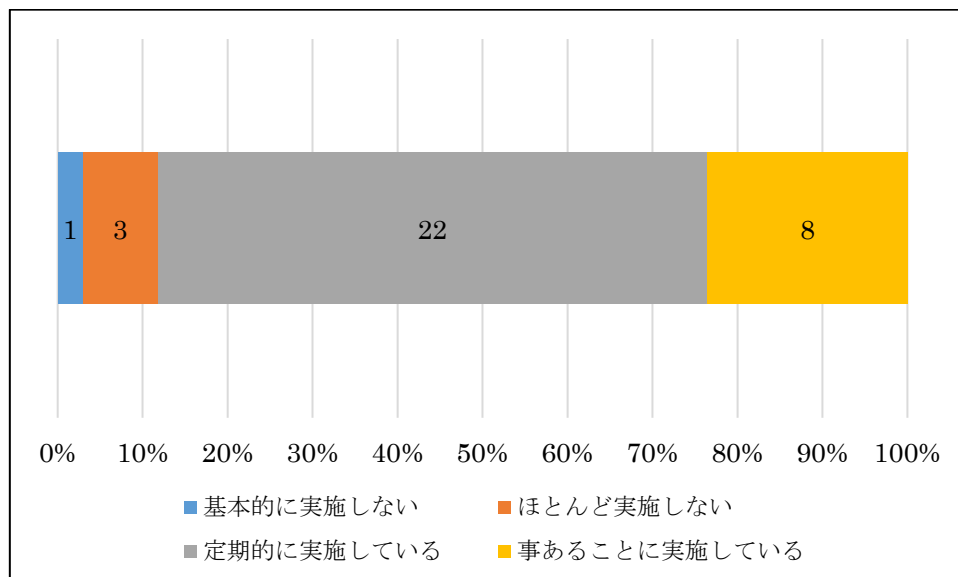


図 1 3 市町村間での情報共有や協議等の実施頻度 (N=34)

(3) 保健所以外の手機関との連携状況に関する質問

Q16: 保健所以外の手機関との連携状況についてお答えください

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: ない
- 2: 年に1回
- 3: 年に数回
- 4: 事あるごとに実施

愛知県の本庁との連携実施状況においては、回答者の4割以上が連携を実施していないという結果が得られた。地方衛生研究所との連携は基本的に無いようであった。職域関係者との連携実施状況では、回答者の約3割が連携を実施していないという結果が得られた。医師会・歯科医師会・薬剤師会の三師会との連携実施状況では、回答者の約9割が少なくとも年に1回程度は連携を実施しており、他の関係機関と比べて多い割合となっている。学校等との連携実施状況に関しても、回答者の約9割が少なくとも年に1回程度は連携を実施しており、三師会と同様に高い割合を示している。

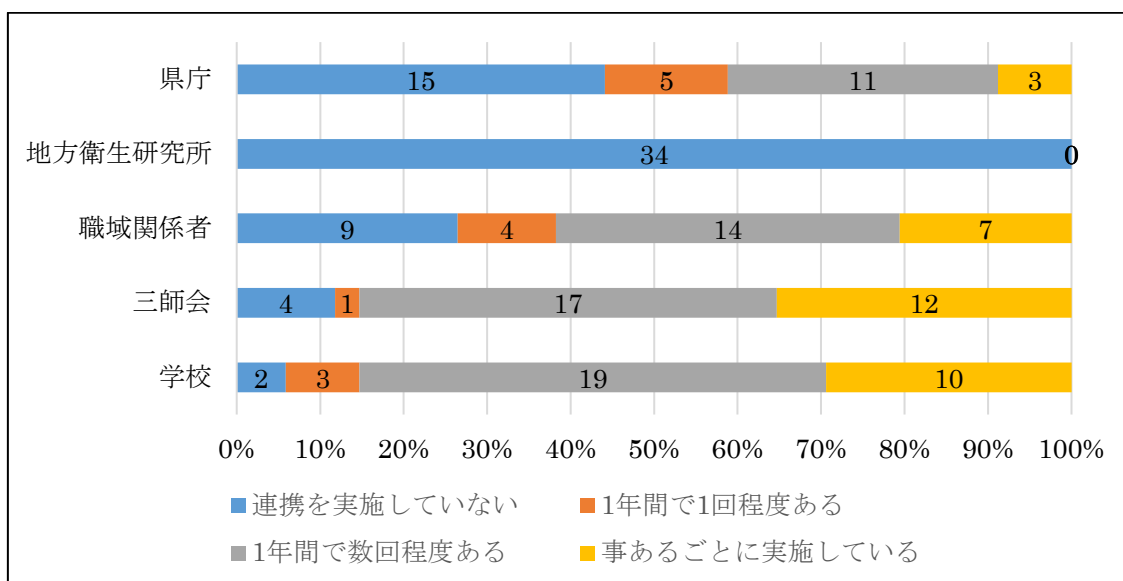


図14 保健所以外の手機関との連携状況 (N=34)

Q17: 保健所以外他機関との連携は必要であると考えていますか？

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 基本的に必要でない
- 2: 必要でないことの方が多い
- 3: 必要であることの方が多い
- 4: 基本的に必要である

保健所以外他機関との連携は必要であるかどうかについて、回答者全員が必要であることの方が多い、または基本的に必要であると回答していた。

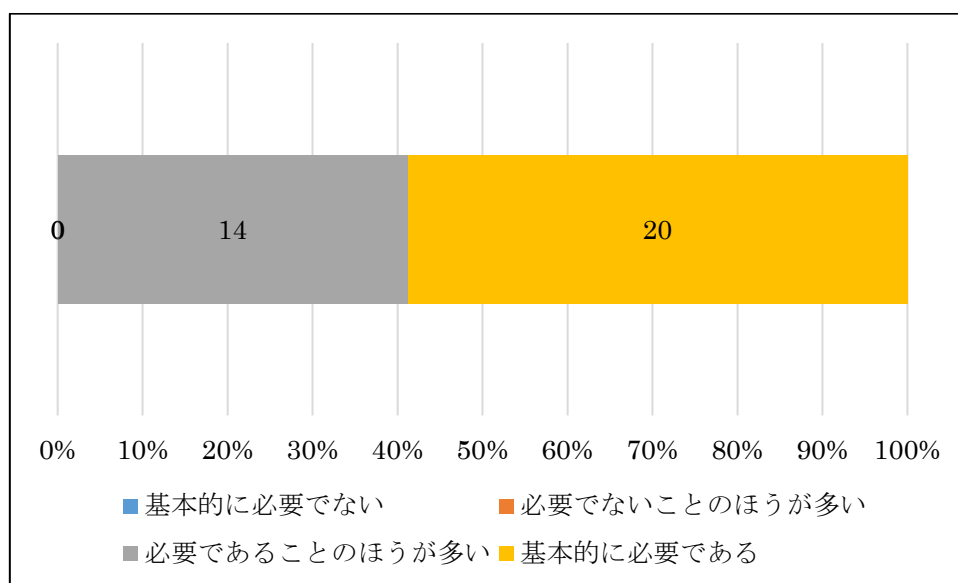


図15 保健所以外他機関との連携の必要性認識度 (N=34)

(4) 保健所と連携を取る際の状況に関する質問

Q18: 保健所の問い合わせの窓口（担当者）について

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 誰が担当なのかほとんど把握していない
- 2: 誰が担当なのかあまり把握していない
- 3: 誰が担当なのかある程度把握している
- 4: 誰が担当なのかほとんど把握している

「問い合わせ窓口の把握」については、回答者の約5割が「誰が担当なのかほとんど把握していない」あるいは「誰が担当なのかあまり把握していない」と回答する結果となった。

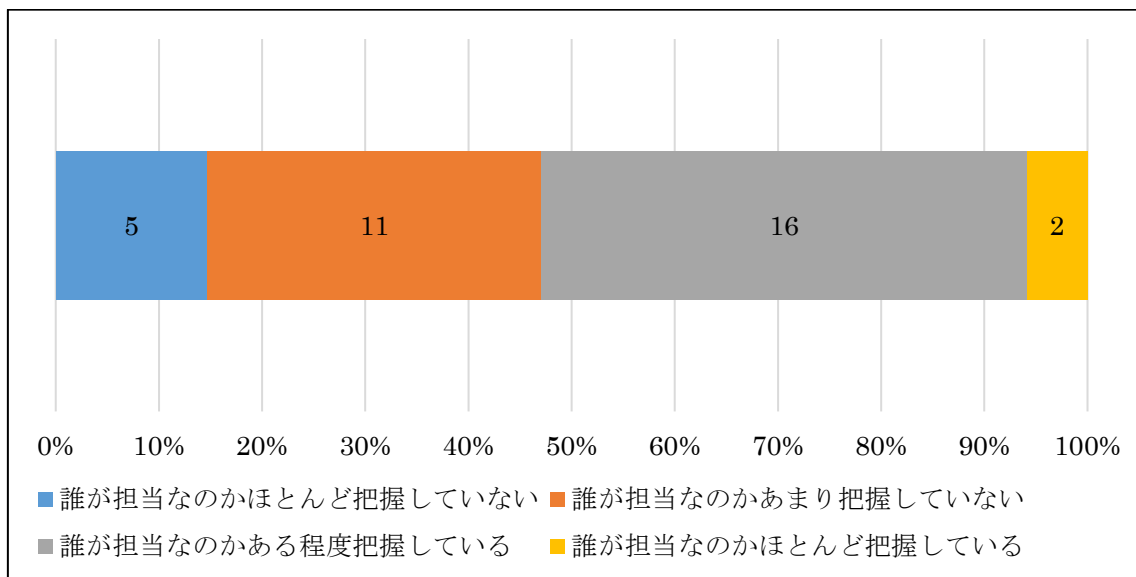


図16 保健所の問い合わせの窓口（担当者）(N=34)

Q19: 市町村と保健所で業務が違うことが連携の支障になるかどうかについて

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 全く影響していないと感じている
- 2: あまり影響していないと感じている
- 3: ある程度影響していると感じている
- 4: とても影響していると感じている

「業務内容の相違が連携の支障になるかどうか」については、「全く影響していないと感じている」「あまり影響していないと感じている」が合わせて約5割の回答となった。同様に「ある程度影響していると感じている」「とても影響していると感じている」も合わせて約5割の回答となった。

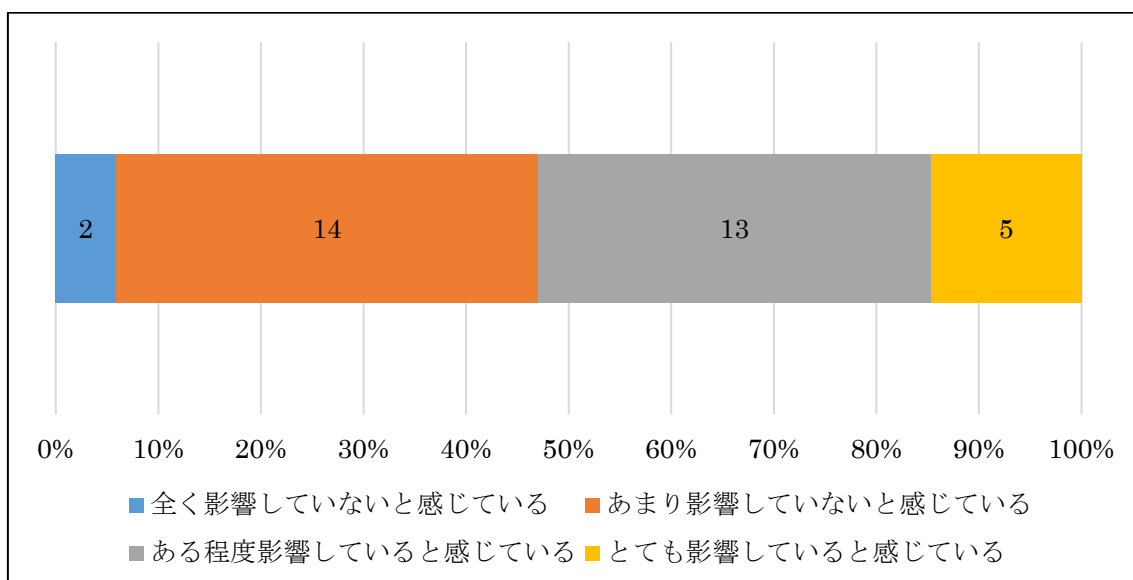


図17 市町村と保健所で業務が違うことが連携の支障になるかどうか (N=34)

Q20: 保健所と連携を取ることにに対する上司・同僚の理解や協力について

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 全く得られない
- 2: あまり得られない
- 3: ある程度は得られている
- 4: とても得られている

「連携に対する上司・同僚の理解」では、1名を除くほぼ全員が「ある程度は得られている」あるいは「とても得られている」と回答していた。

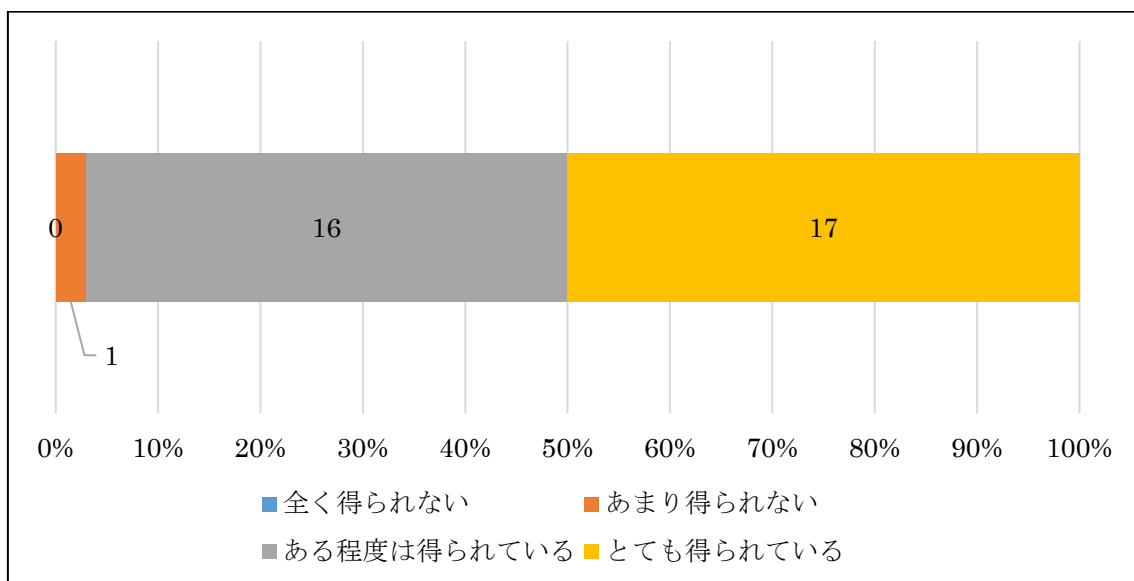


図18 保健所と連携を取ることにに対する上司・同僚の理解や協力 (N=34)

Q21: 通常業務の繁忙が連携の支障になるかどうかについて (あてはまるものを1つ選択)

- 1: 全く影響していないと感じている
- 2: あまり影響していないと感じている
- 3: ある程度影響していると感じている
- 4: とても影響していると感じている

「通常業務の繁忙が連携の支障になるかどうか」については、回答者の6割程度が「ある程度影響していると感じている」あるいは「とても影響していると感じている」と回答していた。「全く影響していないと感じている」は0人であったが、「あまり影響していないと感じている」と回答した回答者が約4割であった。

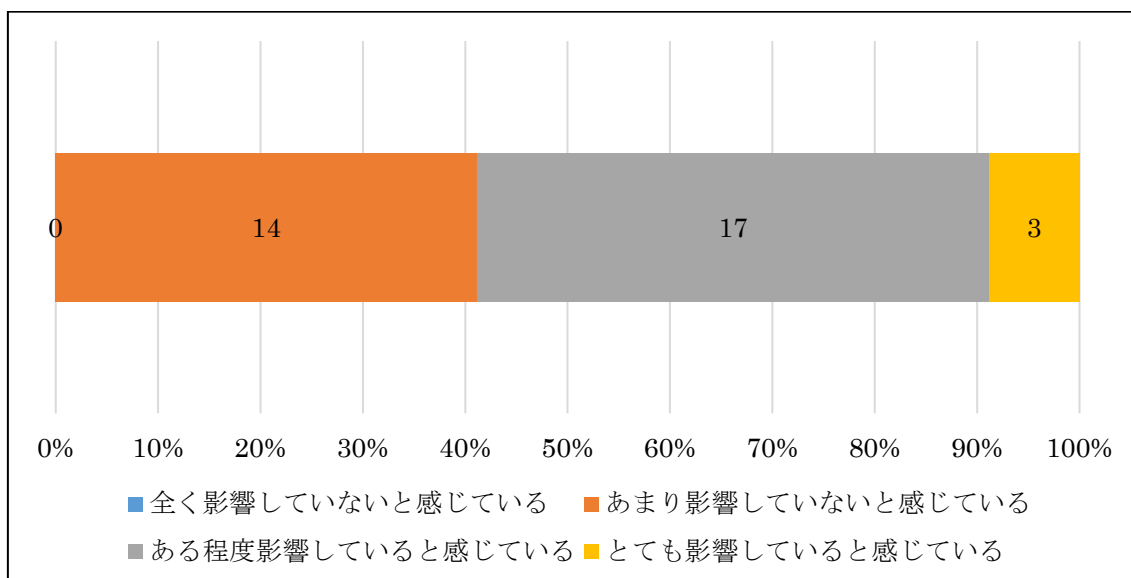


図 1 9 通常業務の繁忙が連携の支障になるかどうか (N=34)

Q22: 保健所と連携することで得られるメリットについて（あてはまるものを1つ選択）

- 1: メリットはほとんどないと考えている
- 2: メリットはあまりないと考えている
- 3: メリットはある程度あると考えている
- 4: メリットはとてもあると考えている

「連携によって得られるメリットの認識」については、回答者の約3割が「メリットはあまりないと考えている」あるいは「メリットはほとんどないと考えている」と回答する結果となった。7割以上の回答者が得られるメリットは一定以上あると考えていることが明らかとなった。

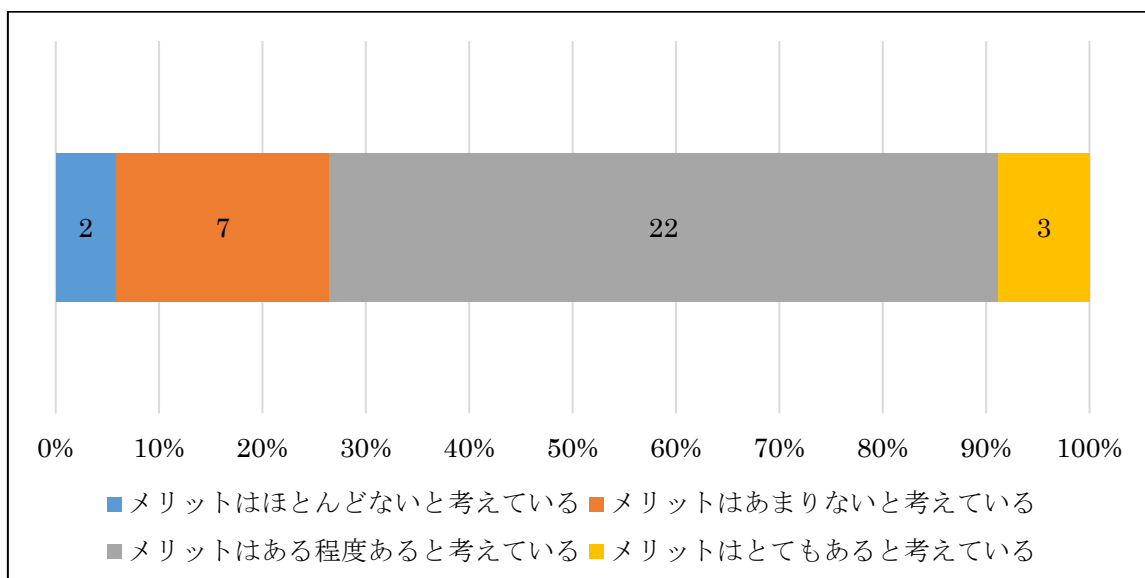


図20 保健所と連携することで得られるメリット (N=34)

Q23: 保健所との連携の進め方について（あてはまるものを1つ選択）

- 1: よく分からない
- 2: あまり分からない
- 3: ある程度分かる
- 4: 分かる

「連携の進め方」については、「よく分からない」回答者が6名、「あまり分からない」回答者が12名となり、全体の約5割が連携の進め方をあまり理解していないという結果となった。

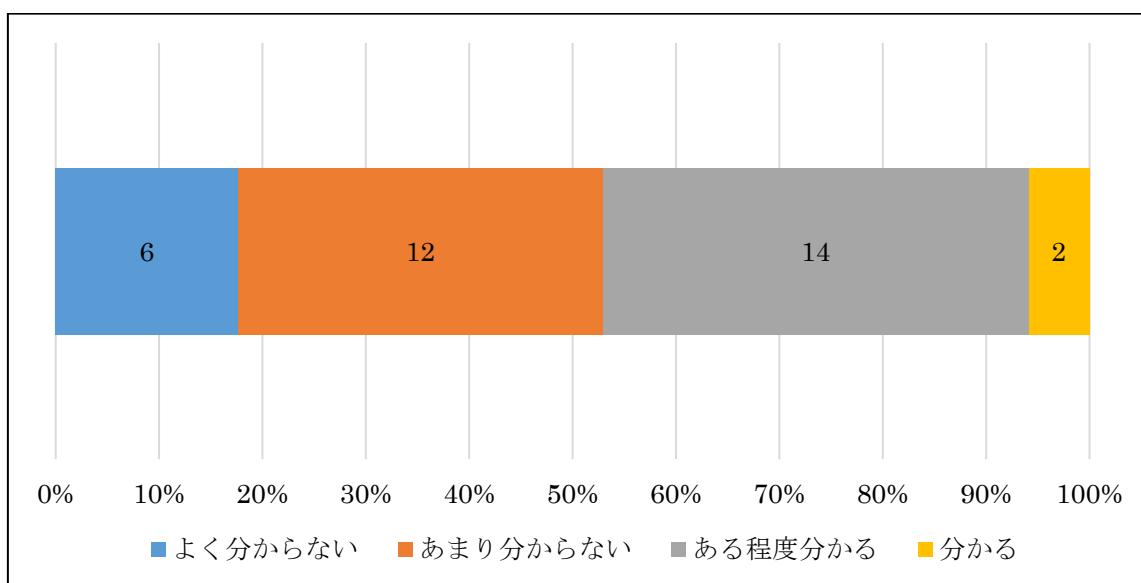


図 2 1 保健所との連携の進め方 (N=34)

Q24: 連携に関する予算について（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 不十分であると考えている
- 2: 不足気味であると考えている
- 3: ある程度足りていると考えている
- 4: 十分であると考えている

「連携に関する予算」については、3割程度の回答者が予算は「不足気味であると考えている」あるいは「不十分であると考えている」と回答していた。一方で「ある程度足りていると考えている」の回答者が5割を占めており、「十分であると考えている」回答者は約2割程度であった。

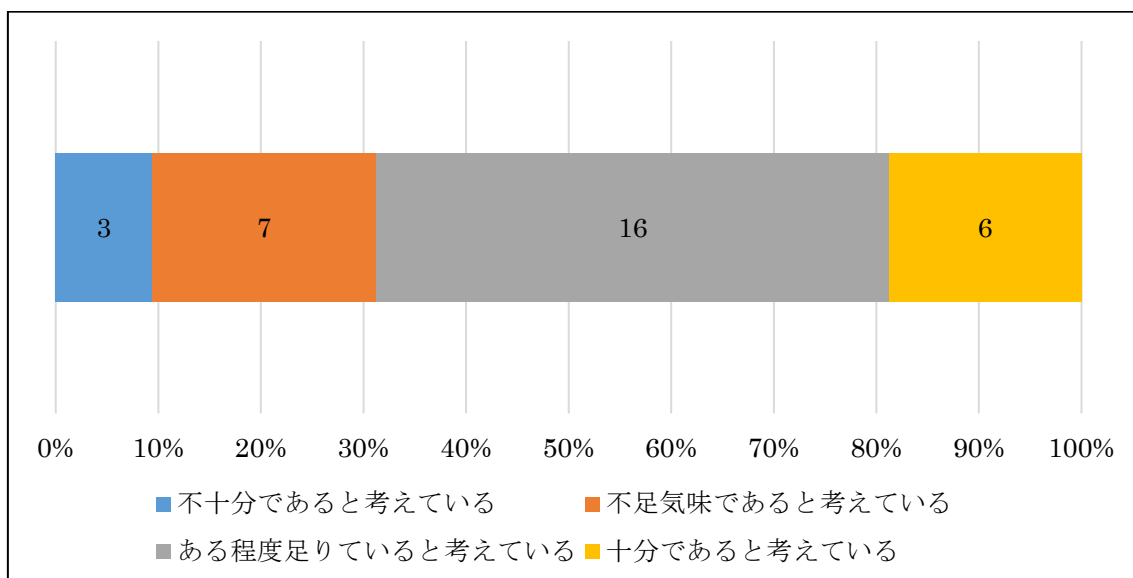


図 2 2 連携に関する予算 (N=32)

Q25: 保健所職員（保健所の担当職員）の方との信頼関係について

（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 良好でないと感じている
- 2: あまり良好でないと感じている
- 3: ある程度良好であると感じている
- 4: とても良好であると感じている

「市町村職員と保健所職員の信頼関係」については、回答者の約4割が「あまり良好でないと感じている」あるいは「良好でないと感じている」と回答する結果となった。「ある程度良好であると感じている」回答者は約6割であった。

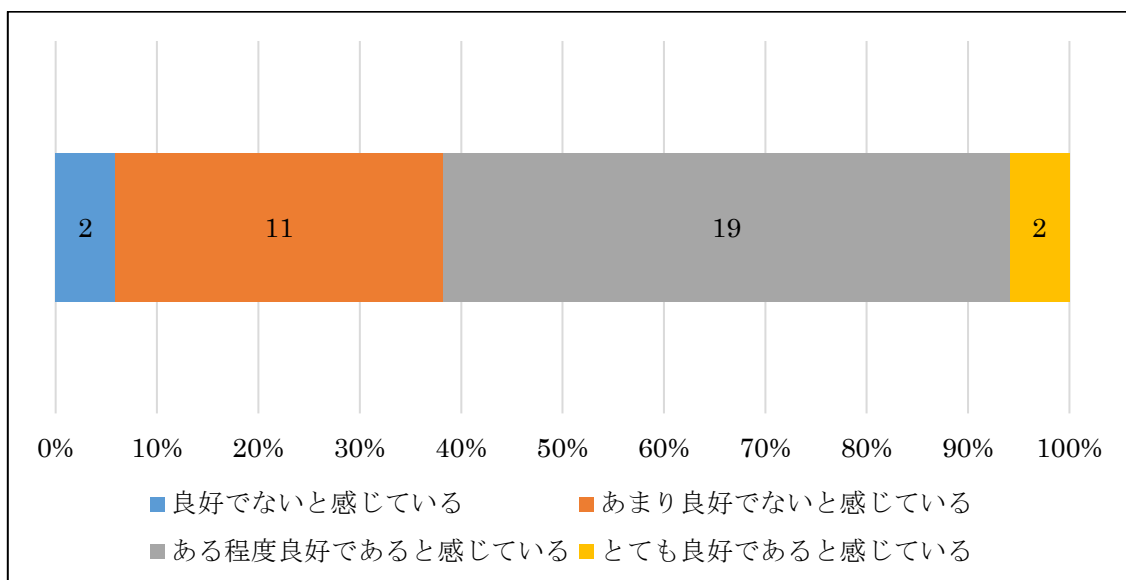


図 2 3 保健所職員（保健所の担当職員）の方との信頼関係（N=34）

Q26: 保健所とのスケジュール調整について（あてはまるものを1つ選択）

- 1: スケジュールが合わない
- 2: スケジュールが合わないことが多い
- 3: スケジュール調整はそこまで困難ではない
- 4: スケジュール調整はすぐにできる

「連携のスケジュール調整」については、回答者で困難に感じている割合は3割程度に留まっており、約7割の回答者が「スケジュール調整はそこまで困難ではない」と回答していた。

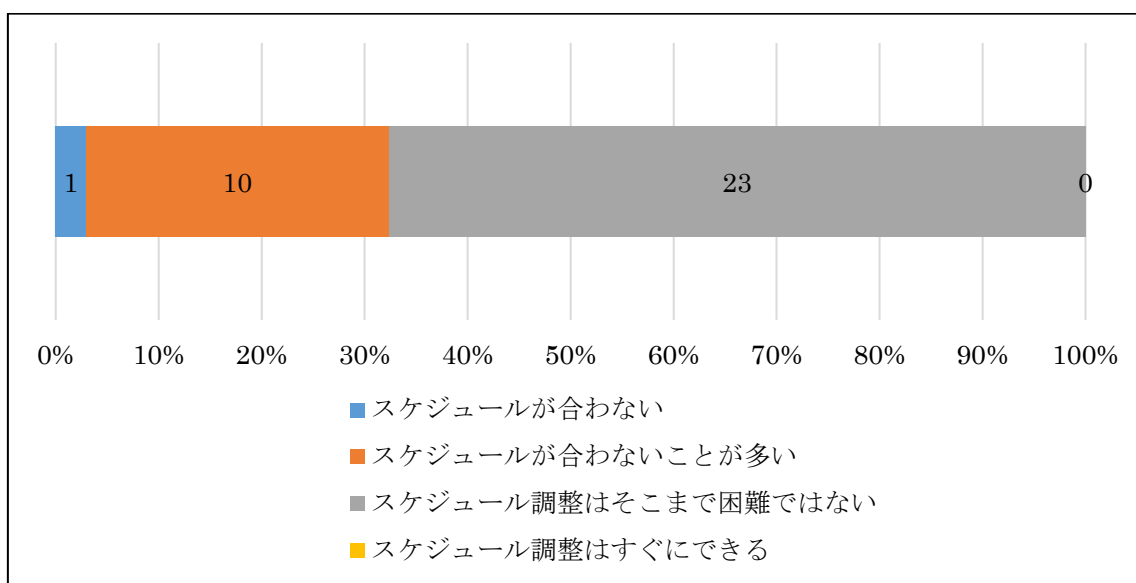


図2 4 保健所とのスケジュール調整 (N=34)

Q27: 保健所との連携に対するイメージについて（あてはまるものを1つ選択）

- 1: 良いイメージはない
- 2: あまり良いイメージはない
- 3: ある程度良いイメージである
- 4: 良いイメージである

「連携に対するイメージ」については、回答者の5割が「良いイメージはない」あるいは「あまり良いイメージはない」と回答しており、保健所との連携に対してあまり良い印象を持っていないという結果が明らかとなった。

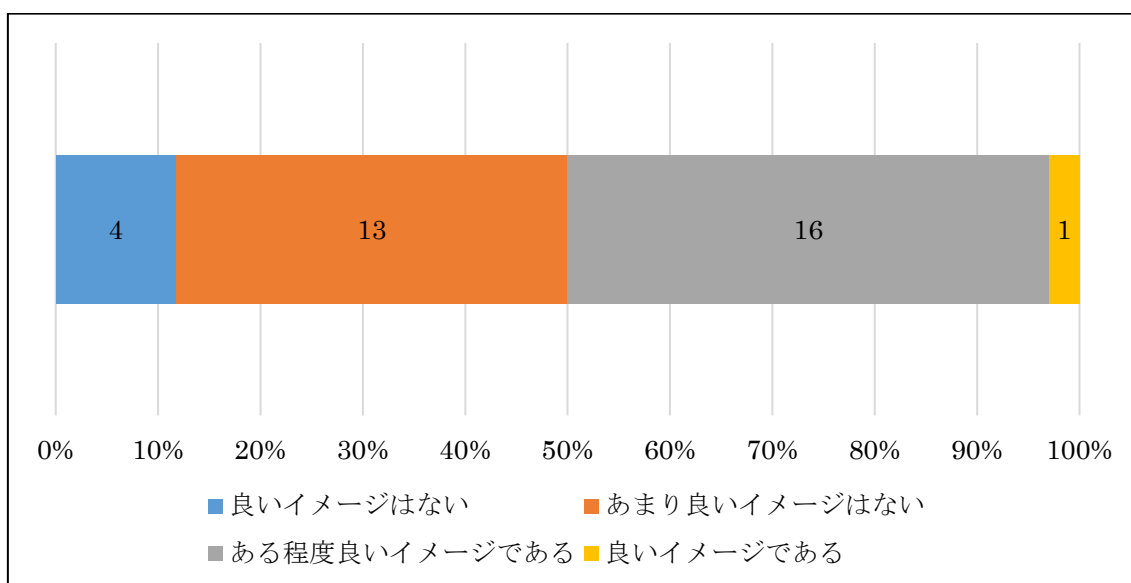


図 2 5 保健所との連携に対するイメージ (N=34)

Q28: 市町村と保健所の互いのニーズを把握できているかどうかについて

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 把握できていないと考えている
- 2: あまり把握できていないと考えている
- 3: ある程度把握できていると考えている
- 4: 把握できていると考えている

「互いのニーズを把握できているかどうか」については、回答者の8割が「把握できていないと考えている」あるいは「あまり把握できていないと考えている」と回答しており、ニーズをあまり把握できていない現状が明らかとなった。「把握できていないと考えている」と回答した回答者は0人であり、「ある程度把握できていると考えている」も6名に留まった。

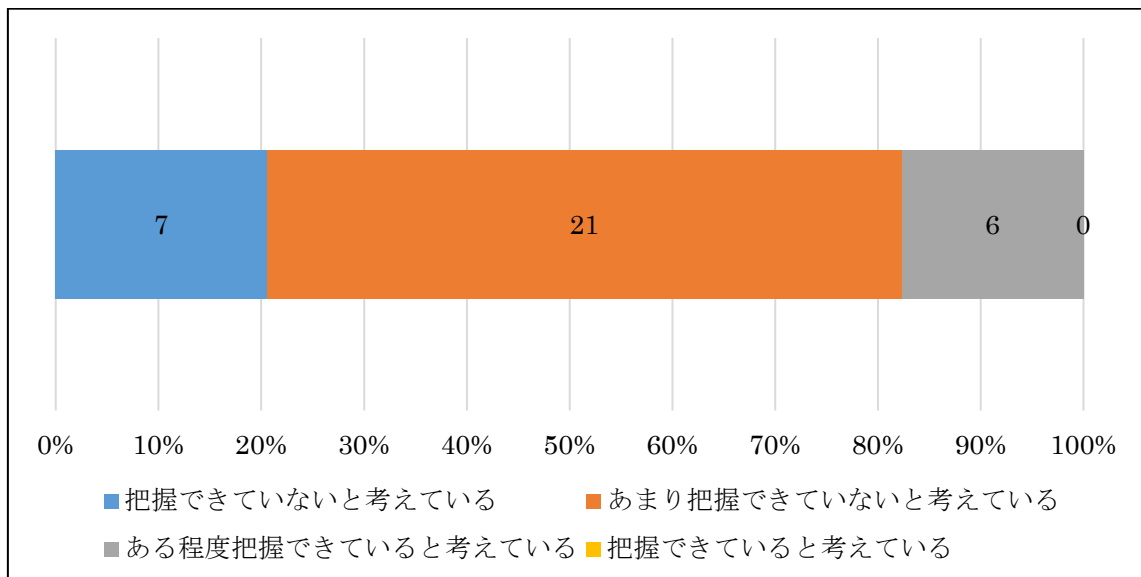


図26 市町村と保健所の互いのニーズを把握できているかどうか (N=34)

Q29: 個人情報保護法などの法的な制約が連携に影響しているかどうかについて
(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 制約であると感じる
- 2: 多少制約であると感じる
- 3: あまり制約であると感じない
- 4: 制約であると感じない

「法的な制約が連携に影響しているかどうか」については、「あまり制約であると感じない」「制約であると感じない」を合わせて全体の8割以上を占めており、法的な制約はあまり影響していないと考えている回答者が多い結果となった。

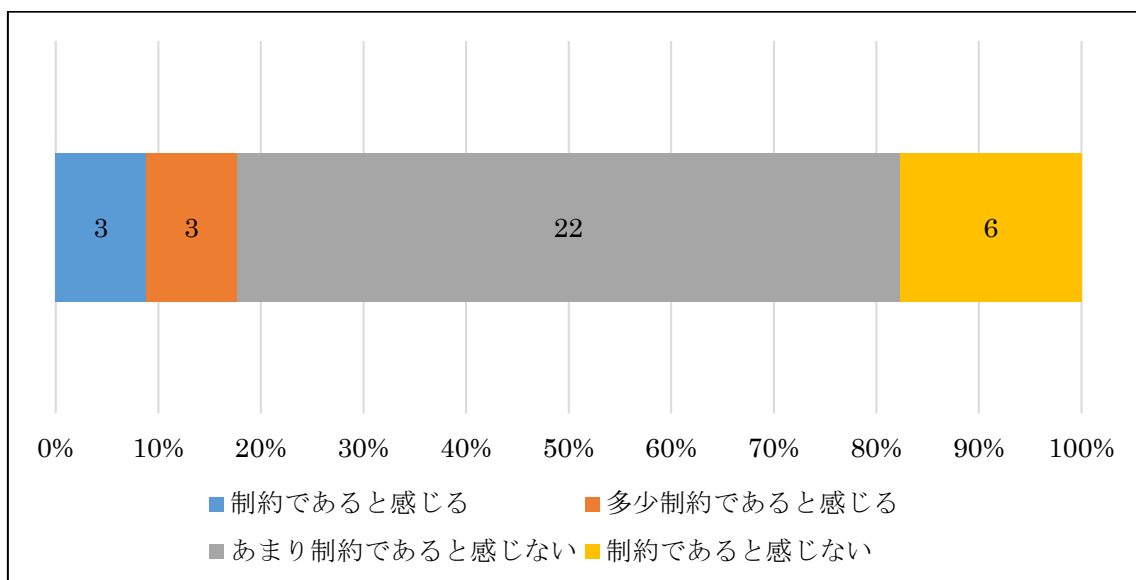


図 2 7 個人情報保護法などの法的な制約が連携に影響しているかどうか (N=34)

(5) 保健所との連携について具体的なケースごとの実施状況に関する質問

Q30: 保健所との連携について具体的なケースごとの実施状況についてお答えください
(あてはまるものを1つ選択)

1: 実施した経験がない
2: 基本的に実施していない
3: ほとんど実施していない
4: 定期的実施している
5: 事あるごとに実施している

*具体的なケース

- ・連絡会議等の会議への参加
- ・健康課題の対応に向けた協議・事業実施
- ・技術的な相談・問い合わせの実施
- ・担当業務等の個別ケースごとの情報共有の実施

それぞれ「健康課題の対応に向けた協議・事業実施」が7割、「技術的な相談・問い合わせの実施」が8割、「担当業務等の個別ケースごとの情報共有の実施」が6割の回答者が「基本的に実施していない」、あるいは「ほとんど実施していない」と回答する結果となった。一方で「連絡会議等の会議への参加」については約6割の回答者が「定期的実施している」あるいは「事あるごとに実施している」と回答している。

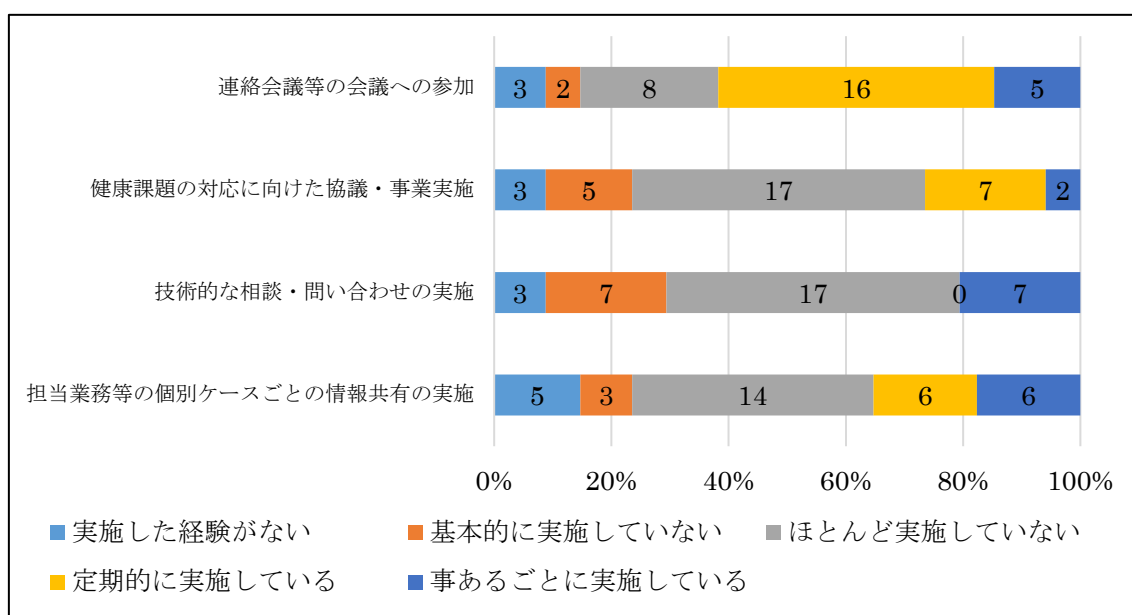


図28 保健所との連携について具体的なケースごとの実施状況 (N=34)

Q31: 健康増進事業における連携について、保健所にはどの程度期待していますか？

(あてはまるものを1つ選択)

- 1: 全く期待していない
- 2: あまり期待していない
- 3: ある程度期待している
- 4: 非常に期待している

健康増進活動における連携について、保健所への期待度を尋ねた結果、回答者の5割近くが保健所に対して「全く期待していない」あるいは「あまり期待していない」という結果となった。

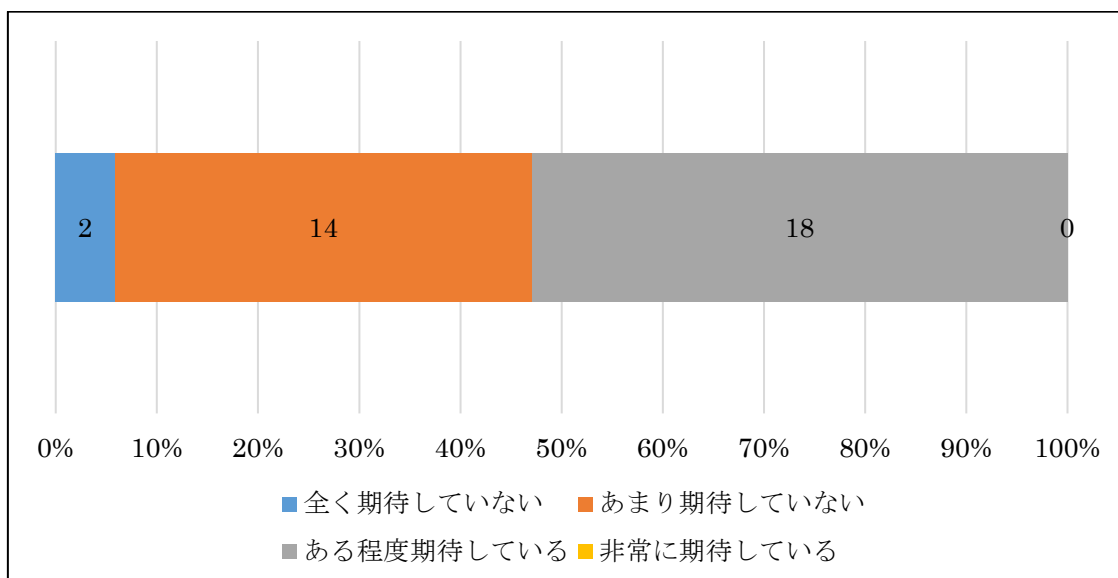


図29 健康増進事業における連携について保健所に対する期待度 (N=34)

(6) 自由記述

Q32: 健康増進事業において、あなたが考える保健所の問題点は何であると考えていますか？

回答者の考える「保健所の問題点」について、似たような内容を分類した結果、大きく分けて、

- ・保健所職員は現場を知らない人が多く相談にならない
- ・情報提供はあるが、その先の具体的な取り組みが見えない
- ・保健所から市町に業務がどんどん下りてきているため、保健所にもっと事業を実施して欲しい
- ・市町の取り組んでいることを保健所が把握していない
- ・何を担ってもらえるか分からない

の5つに分類できた。

保健所職員は現場を知らない人が多く相談にならない

- ・市への業務移譲が多くなり、保健所職員の経験及び技術が市町村職員よりも下になってしまっている。そのため、特に個別ケースにおいて、相談、連携の対象とはなりにくい。
- ・ケースに当たらないことでスキルが上がらないため、保健センターへの指導もできないのではないか。説得力がない。
- ・健康増進事業を直接担当されていないので、業務の相談をする意識が私たちにない
- ・保健所は実働をあまりしていないため、机上の空論になりやすいのではないか
- ・市町の指導的立場ではあるが実際の現場を共有していないこと
- ・現場を知らない職員が多くなったこと
- ・健康増進事業の中で21計画の推進について以外はほとんどかかわる機会がない
- ・現場にあまり介入がない

情報提供はあるが、その先の具体的な取り組みが見えない

- ・情報提供はあるが、具体的な取り組みに至っていない
- ・広域的な情報集約や市町村と連携した業務ができていない
- ・課題が共有できていない。県の方針が見えない。
- ・資料作りが中心で、会議の成果が少ないこと

<p>保健所から市町に業務がどんどん下りてきているため、保健所にもっと事業を実施して欲しい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・横断的な活動が不足しているため、保健所の考え方や施策について、もっと積極的な情報発信や市町村への働きかけをお願いしたい ・保健所に依頼しても、歩み寄りなくできないと言われ、期待できないことが多い。現場の臨場感が伝わりにくい。 ・県民対象としての個別支援をまったくしていない ・業務が町におりてくるため、逆に保健所がなにをやっているのか分かりにくい ・タバコの飲食店の受動喫煙防止事業については、保健所が登録申請機関になっているのならもっと保健所から積極的に飲食店等に呼びかけて頂きたい ・どんどん市町村に業務が移行している
<p>市町の取り組んでいることを保健所が把握していない</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市町の取り組みや現状を把握していないこと ・市町村の現場の実状や、動きを把握していないこと ・市町村の業務内容の把握が不十分であると、各市の課題までの理解は困難である ・市町村と保健所が取り組んでいる事業や見える課題に共有しているところが少なくなっており、互いの仕事が見えにくくなっている
<p>何を担ってもらえるか分からない</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・こういった支援をしていただけるのか分からないのが正直なところ ・何を担ってもらえるのかよくわからない ・保健所から会議等以外で関わりを求められることはないと感じる

Q33: 健康増進事業において、保健所に求めることは何ですか？

回答者の考える「保健所に求めること」について、似たような内容を分類した結果、大きく分けて、

- ・市町単独ではできないような、広い視野に立って市町の支援を行う
- ・広域的な支援
- ・専門性の高い技術支援（困難ケース等）
- ・もっと市町に出向いて一緒に考えるなどの機会を作って欲しい
- ・求めることはない（必要ない）

の5つに分類できた。

市町単独ではできないような、広い視野に立って市町の支援を行う

- ・ニーズなどをデータから掘り起し、地域の特徴を出す
- ・似たような地域の参考事例の提案など、広い視野に立って、全体の健康増進事業の方向性を定めて欲しい
- ・市町村が横断的な活動に積極的に取り組めるような情報提供や働きかけ
- ・効果的で具体的な取り組み方法
- ・県レベル、あるいは管内、医療圏レベルなど、市だけではできない広域的な調整、指導、データ分析など
- ・計画策定・見直し時期の支援（データの提供、データ分析や計画内容に対する助言など）

広域的な支援

- ・管内および県の状況について、統計の提供をしていただく
- ・国や県の動向等についての情報提供
- ・広域的な情報収集・分析
- ・アドバイス、助言、広域的な視点での捉え方
- ・市町村支援
- ・保健所を含めた市町村の連携
- ・新しい情報の提供

<p>専門性の高い技術支援（困難ケース等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難ケースへの対応や，地区診断などの相談にのっていただきたい ・ 困った時の相談 ・ 個別ケースの情報共有をしてほしい ・ より専門性の高い技術支援
<p>もっと市町に出向いて一緒に考えるなどの機会を作って欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供だけでなく，問題解決と一緒に取り組んでもらうことが可能であればお願いしたい ・ 市町村業務に興味を持ち，業務を把握する機会を定期的に作ること ・ もっと地域に出て来て欲しい ・ もっと市町村へ出向いてほしい ・ マイレージ事業の登録店の増加など ・ 一緒に考えて欲しい
<p>求めることはない（必要ない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を求めているのか分からない ・ まったくない。保健所がその機能を持っていない。

以上

ご協力ありがとうございました。